

プロフィール

氏名	こうさか けんじ		
	高坂 健次		
所属	社会学部社会学科	職名	教授
学位	Ph. D., 社会学修士, 社会学士	専攻	理論社会学, 数理社会学
所属学会	日本社会学会, 関西社会学会, 数理社会学会, アメリカ社会学会, 社会・経済システム学会, 日本社会学会史学会, International Sociological Association, アジア太平洋社会学会		
学内職歴	学部長 (1999～2000年度、2006年11月1日～), 21世紀構想事務室長 (1997～1998年度), 評議員 (2004年4月～), 学部長 (2006年11月～現在に至る)		
研究分野	数学的モデルの構築と分析を通して、新しい理論社会学像の確立をめざしている。2003年度～2007年度は関西学院大学21世紀COEプログラム「『人類の幸福に資する社会調査』の研究」に拠点リーダーとして従事した。2008年度からは「グローバルな富の再配分による幸福の増加」プロジェクトに従事している。		

この研究業績等の一覧は、主要研究業績を除き本年度を含み過去5年度分を表示しています。

主要研究業績

区分	著書名・論文名・論題名等	掲載誌／巻・号／発行所／学会名等	発行／発表年月
<2007年度>			
著書			
共	Kenji KOSAKA and Masahiro OGI NO, A Quest for Alternative Sociology, 13, 271 pages	Melbourne: Trans Pacific Press	2008, 03
レフェリー付論文			
単	A Sociology for Happiness: Beyond Western versus Non-Western Perspectives	Sociological Bulletin (Journal of the Indian Sociological Society), Vol.56 No.3, Indian Sociological Society	2007, 09～ 2007, 12
<2006年度>			
編著			
共	A Sociology of Happiness	Melbourne: Trans Pacific Press	2006, 12
<2005年度>			
著書			
単	社会学におけるフォーマル・セオリー 改訂版	東京：ハーベスト社	2006, 01
<2003年度>			
著書			
共	Generating Images of Stratification: A Formal Concept		2003, 08
<1993年度>			
編著			
共	<i>Social Stratification in Contemporary Japan</i>	London:Kegan Paul International	1994, 03
<1991年度>			
論文			
共	Self-location in a class system: A formal theoretical analysis	E. Lawler et al., (eds.) <i>Advances in Group Processes</i> , 9, JAI Press	1991, 12

業 績

区分	著書名・論文名・論題名等	掲載誌／巻・号／発行所／学会名等	発行／発表年月
<2006年度>			
著書			
共	A Sociology of Happiness: Japanese Perspectives., Advanced Social Research vol.1	Melbourne:Trans Pacific Press.	2006, 06
論文			

単	資産格差の露呈とコミュニティ・セーフネット	CEL 78号：59-63, 大阪ガス エネルギー・文化研究所	2006, 09
単	"Science in Popular Culture", "The Effects of Television on People's Consciousness", "The 'Buy Japanese' Campaign and Progress in Japanese Technology"	Nakayama, S. and K. Goto(eds.), A Social History of Science and Technology in Contemporary Japan, Volume 3 High Economic Growth 1960-1969., Melbourne:Trans Pacific Press.	2006, 06
共	"Determinants of Linguistic Human Rights Movements: An Analysis of Multiple Causation of LHRs Movements Using a Boolean Approach"	Social Forces.	2006, 06
単	社会学における理論形成—いま、何が必要か—	『社会学評論』224号	2006, 06

学会報告

共	A Boolean Analysis of Human Well-being	International Conference on Comparative Social Sciences	2006, 07
---	--	---	----------

講演

単	A Sociology for Happiness	第16回ISA World Congress of Sociology (ダーバン, 南アフリカ共和国) インド社会学会主催セッション「Internalization of Sociology」	2006, 07
---	---------------------------	---	----------

<2005年度>

著書

単	社会学におけるフォーマル・セオリー階層イメージに関するFKモデル— [改訂版]	東京：ハーベスト社	2006, 01
---	---	-----------	----------

論文

単	進む階層化社会のなかで「被害の階層性」は克服できるか：総資産5000万円の壁をどう考えるか	『世界』12月号 Pp.190-198., 東京：岩波書店	2005, 12
共	社会的地位と個人的地位—日本の事例をとおして—	『ソシオロジ』154 第50巻2号：103-119	2005, 10
単	古典理論の再構成：社会学の理論構成	盛山和夫・土場学・野宮大志郎・織田輝哉編著『<社会>への知／現代社会学の理論と方法（上）理論知の現在』 Pp.33-52., 東京：勁草書房	2005, 08

<2004年度>

著書

共	シンボリック・デバイス：意味世界へのフォーマル・アプローチ	東京：勁草書房	2005, 03
共	当代日本社会分層, (Social Stratification in Contemporary Japan. 1994 London:Kegan Paul International の中国語訳)	中国人民大学出版社	2004, 06

論文

単	"A Note on White's Model of Kinship"	三隅一人編『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』：43-48. [科学研究費報告]	2005, 03
---	--------------------------------------	---	----------

共	災害とヴァルネラビリティ	関西学院大学COE災害復興制度研究会編『災害復興 ：阪神・淡路大震災からの10年』 Pp.167-182. ， 関西学院大学出版会	2005. 01
単	頻ニ無辜ヲ殺傷シ一幸福と不幸の 社会学序説	関西学院大学大学院社会学研究科21世紀COEプログ ラム『先端社会研究』創刊号 Pp.1-51.， 西宮： 関西学院大学出版会	2004. 12

<2003年度>

著書

共	Generating Images of Stratifi cation: A Formal Theory.	Kluwer	2003. 08
---	---	--------	----------

論文

共	中国都市社会における「小区」紛 争	『社会学部紀要』第95号：79-94,関西学院大学社 会学部研究会	2003. 10
---	----------------------	--------------------------------------	----------

その他の活動

	活動内容	発行／活動年月
<2004年度>		
学外委員等		
	社会経済システム学会理事	1995. 04～ 2005. 03
	学術研究都市学術委員会委員	1995. 04～ 2005. 03
	アジア太平洋社会学会会長	1998. 03～ 2005. 03
	西宮ロータリー会員	2000. 07～ 2005. 03